

平成28年度道德教育実践研究事業実績報告書

1 研究指定校の概要

指定校名	鳴門市立鳴門市大麻中学校
校長氏名	矢野 謙 作
所在地	徳島県鳴門市大麻町池谷字長田105
電話番号	088 - 689 - 0230
U R L	http://e-school.e-tokushima.or.jp/naruto/jh/ooasa/html/htdocs

2 研究課題

(1) 研究主題

生きる力の基盤となる豊かな心をはぐくむ道德教育の研究
～道德の時間を要として～

(2) 設定理由

本校の所在地、鳴門市大麻町は四国霊場一番札所や二番札所があり、古来より遍路文化によって育まれた「お接待・もてなしの心」が根付いている。また、世界の偉人賀川豊彦のふるさとである大麻町には、第一次世界大戦時に板東俘虜収容所に収容されたドイツ兵との心温まる交流の歴史もある。校区には鳴門市における人権問題解決の拠点である人権福祉センターがあり、学校・家庭・地域・行政等が協働した人権尊重のまちづくりを進めている。

このような地域の特性を活かし、「地域の人・もの・ことを活かした体験活動や心に響く道德の授業を通して、よりよく生きるための道德性を養う」ことで、生きる力の基盤となる豊かな心を育てたいと考え、本主題を設定した。

3 研究の概要及び特色

(概 要)

研究の重点目標として、以下の4点を掲げた。

- ① 望ましい生活習慣の定着を図る。
- ② まわりに対する信頼と思いやりの心の涵養を図る。
- ③ 自然を愛し、生命を尊重する心の涵養を図る。
- ④ 社会連帯意識の高揚と社会に奉仕する心の涵養を図る。

実践のポイント

地域の人・もの・ことを取り入れた体験活動を道德の授業に活かすとともに、ICTの活用や中心発問を大切にした研究授業を行い、人の生き方について考えることが楽しいと感じられる授業づくりを工夫する。

①「道徳教育推進体制づくり」～機能的に動く体制づくり

```

graph TD
    A[校長] --> B[副校長]
    B --> C[教務主任・研修主任]
    C --> D[道德教育推進教師]
    D --> E[1 学年研究部]
    D --> F[2 学年研究部]
    D --> G[3 学年研究部]
    E --> E1[授業研究部員]
    E --> E2[教材整備部員]
    E --> E3[環境整備部員]
    E --> E4[家庭地域部員]
    F --> F1[授業研究部員]
    F --> F2[教材整備部員]
    F --> F3[環境整備部員]
    F --> F4[家庭地域部員]
    G --> G1[授業研究部員]
    G --> G2[教材整備部員]
    G --> G3[環境整備部員]
    G --> G4[家庭地域部員]
  
```

校長

副校長

教務主任・研修主任

道德教育推進教師

1 学年研究部

授業研究部員

教材整備部員

環境整備部員

家庭地域部員

2 学年研究部

授業研究部員

教材整備部員

環境整備部員

家庭地域部員

3 学年研究部

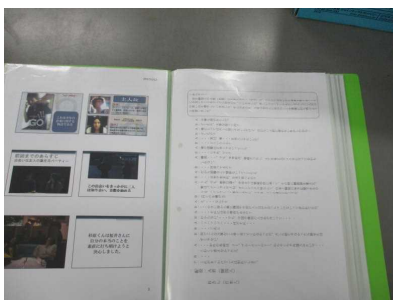
授業研究部員

教材整備部員

環境整備部員

家庭地域部員

- ## 各道徳部会の様子



→

<教材整備部>
 ←教材集の整理
 各学年ごとに資料・学習プリント・振り返りシート・学習計画などを整理した。

振り返りシートの作成

「教出一エルトワール号連綴一」

学習課題 人の生き方という視点からみた国際社会について考えよう。

年 組 ()

○ 今日の授業を通して、感じたことや考えたこと、学んだことをまとめましょう。

外国としか関係なく助けたのは正しい
と思った。思返しては知っていたけど思わ
ずは初めて知った。国際警察だ。国際理
解と関心と興味と興味だと思わなければ
あつたということが分かった。困っている
人がいたら助けてあげたい。

○今日の道徳の授業について、自己評価をしてみよう。

＜ A できた B まよってた C あまりできなかった D できなかった ＞

習得内容の取り組むことができましたか。	(A) B C D
自分の考えを伝えることができましたか。	A (B) C D
友達の話を聴いて考えを深めることができましたか。	(A) B C D
授業の中で新しい発見がありましたか。	(A) B C D



学級掲示「よりよい学校生活」
学習後



学年掲示板「社会正義」学習後

<環境整備部>

道徳の時間に学習したことを，教室や学年掲示板を利用して，生活の中で活かせるようにした。

② 豊かな体験活動



○大麻町人権フェスティバル

大麻町内3小学校の6年生とともに，合同合唱，小学生人権作文朗読，中学生による人権劇上映，三遊亭究斗氏による講演「ピンチをチャンスに変えるキュートな生き方」を行った。人権劇でも，講演でもいじめ問題に関係した内容であり，道徳の時間の学習や日々の生活に結びついている。



○ふれあい授業

16年前から始まったこの学習は，地域の方や保護者の方がゲストティーチャーとなり，勤労の意義や生活の知恵を教えていただくというものである。教えていただく内容は多岐にわたっていることから，道徳教育のさまざまな内容項目について，その学びを深めるエッセンスとなっている。



○ドイツ「リューネブルグ市交換留学生」との交流

鳴門市では，大麻町の板東俘虜収容所でのドイツ兵との交流の歴史を背景にリューネブルグ市と交換留学生の受け入れを行っている。今年も5人の生徒が大麻中学校の生徒とともに，1週間一緒に学んだ。この体験はC-14「国際貢献・国際理解」の学びのなかで気づいた「人と人の心の結びつきが国と国を結びつける一つになる」ということにも繋がった。



○お接待体験

毎年3月に，生徒会主催行事として，一番札所「靈山寺」門前で，四国遍路をされている方々のお接待を体験させていただいている。古くから大麻町で続くこの風習は，B-6「親切・思いやり」やC-16「伝統と文化の尊重」の学習に結びついている。

③ 魅力ある授業の創造

生徒自身が，さまざまな資料を通して人の生き方について考えられることが楽しいと感じられる授業をめざし，校内研修や校内研究授業を行った。



○徳島県道徳教育講演会支援事業の活用

「徳島県道徳教育講演会支援事業」を利用し、高島三枝先生を講師にお迎えして、「道徳の時間の役割」「教材と中心発問」「モラルジレンマ」などの工夫などについて教えていただいた。この研修を通して、読み物教材の魅力・中心発問の重要性を強く感じ、その後の授業の改善につながった。



○鳴門教育大学との連携

鳴門教育大学准教授池田誠喜先生をお迎えして、「救出エルトゥール号遭難」（国際理解・国際貢献）の研究授業を見ていただき、ご指導をいただいた。また、1年生から3年生の学習内容の系統性や人権教育と道徳の時間の兼ね合いなど、学校全体の取り組みについてもご教示いただいた。

○視察校報告会

徳島県中学校道徳教育研究大会、四国小・中学校道徳教育研究大会（愛媛大会）にそれぞれ、3名ずつ参加し、報告会を行った。報告会では、各学年の授業について「主題」「ねらい」「教材観」「授業の流れと中心発問」「板書」など報告し、それ以降の授業の糧とした。

○研究授業・授業研究会



徳島県道徳教育講演会支援事業」を活用した研修を活かした授業

I C T の活用



I C T の活用や中心発問を大切にしたい研究授業を行い、人の生き方について考えることが楽しいと感じられる授業をめざした。また、豊かな体験活動と主体的・対話的な深い学びが結びつくことを意識して学習を進めた。

研究授業

- 1 年 1 組 「キャストの思い」
（自作資料） 内容項目 親切・思いやり
- 1 年 2 組 「ひび割れつぼ」
内容項目 向上心・個性の伸長
関連（人権フェスティバル）
- 2 年 2 組 「あとかくしの雪」
内容項目 親切・おもいやり
関連（お接待体験）
- 3 年 1 組 「救出 エルトゥール号遭難」 内容項目 国際理解
関連（ドイツ交換留学生）
- 3 年 2 組 「G O」（自作資料）
内容項目 国際理解



ホワイトボードの活用

T・Tによる授業



4 研究の成果

○授業力の向上

本校は、長年、人権教育を学校教育の中心として生徒の心を育んできた。道徳教育実践指定校として道徳教育を進めていく中で、人権教育との兼ね合いや、道徳の授業方法など、教師側の戸惑いは大きかった。

しかし、校内研修や先進校視察などを通して、教師側の意識が少しずつ変わっていった。もともと人権教育で身につけた授業力がある。「人の生き方について考えることが楽しいと感じられる授業を創りたい。」「生徒の中にこういう心を育てたい。」そういう思いが、研究授業でなくても互いの授業を見たり、可能な道徳の時間からT・T授業を行ってみるなどの行動に表れ、道徳教育としての教師の授業力を伸ばしてきた。

また、次年度に向けて、ローテーション道徳やT・Tによる授業ができるよう、学校全体の推進体制の整備も進んできている。

○生徒の変容

本校は、学年によって、生徒の集団としての特徴は大きく異なる。そのため、良い面も課題もまったく違う。ただ、すべての学年に共通していることは、「道徳の授業など人の生き方について考える授業は好きである。」と答える生徒が多いことだ。これは、アンケートの結果からも明らかである。

また、学年ごとの成果として、次のようなことがあげられる。

1年生

- ・入学当初と比べ、自分の行動を客観的に見られるようになってきた。
- ・汚い言葉、人を傷つける言葉が減った。
- ・よいこと、人のためになることをしたいという気持ちが強くなった。
- ・授業への集中力が高まったり、取り組む態度がよくなった。

2年生

- ・大きな声で挨拶ができるようになった。
- ・自分を支えてくれる周りの人たちへ感謝の気持ちがもてるようになった。
- ・将来の目標をもち、それにむけてがんばる姿が見えてきた。

3年生

- ・今まで生活の中でしてきたことや感情に意味付けできるようになった（道徳的価値が理解できるようになった。）
- ・視野が広がり、社会の中の一員としての自分の生き方を考えられるようになった。

5 課題

- ・年間計画の整備（とくに各項目について、1～3年までの系統だった学習をどのように計画するかが課題）。
- ・中心発問を大切に、考え議論することが楽しいと感じられる授業づくりに向けて、講師による継続的な研修計画の作成。
- ・35週の授業時間の確保のためローテーション道徳・T T授業の実践に向けての具体的な準備。
- ・授業構想シート・学習プリントの工夫。
- ・これまで行われてきた人権教育やいじめ問題をどう取り上げていくか。